



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 207号 2010.11.30 発行 社会政策研究所

=====

### 改定常用漢字表、30日告示 = 「俺」など196字追加 - 29年ぶり見直し

時事通信社 2010年11月29日

社会で漢字を使う際の目安を定めた「常用漢字表」に「俺」など196字を追加し、「刃(もんめ)」など5字を削除して2136字とした改定常用漢字表が30日午前、告示される。1981年の制定以来、29年ぶりの見直しとなった。

改定では、パソコンや携帯電話が普及し、日常的に使われる漢字が増えたことを背景に、字数が大幅に増加。情報機器で「打つ」ことを前提に「鬱(うつ)」のような画数の多い字も追加し、「全てを手書きできる必要はない」との見解が初めて示された。

同日から公文書の表記は改定表に従う。新たに常用漢字入りした「憬」「喩」などの字を子どもの名前に付けることもできる。学習指導要領は同日付で改定され、2012年度から新しい常用漢字の読みを中学、書きを高校で学ぶことになる。

改定では「茨」「栃」「埼」「梨」「阜」「阪」「奈」「岡」「媛」「熊」「鹿」の11字が加わり、全都道府県名が常用漢字となった。また、「哺」「蔑」などが追加され、「ほ乳類」「軽べつ」のように漢字と平仮名が交ざっていた単語が、全て漢字で書けるようになった。

「勾」も認められたため、新聞記事などで「拘置」と表記されてきた「勾留」(判決確定までの間、容疑者や被告の身柄を拘禁すること)が使われるようになる。

否定的な印象がある「障害」を「障碍(しょうがい)」に書き換えたいとして、障害者団体などが要望した「碍」の追加は見送られたが、文部科学省は、政府の障がい者制度改革推進本部で表記の見直しが決まれば再検討するとしている。

### 高齢者・障害者の再犯防止を支援

朝日新聞 2010年11月29日

20年以上刑務所で生活した男性は「ここを足がかりに社会復帰をしたい」と話した = 雲仙市瑞穂町

雲仙の社福法人が更正保護施設

障害者や高齢者が犯罪を重ねる例が後を絶たない。刑務所からの出所者を一時的に保護する更生保護施設に、彼らを受け入れる態勢がないのも一因だ。こうしたなか、雲仙市の社会福祉法人による更生保護施設が昨春誕生した。更生と福祉を一体で進めることで、出所後の支援が十分に届いていなかった人たちが再犯に走るのを防ごうという試みだ。(安倍龍太郎)

65歳以上7割再入所

雲仙市瑞穂町の更生保護施設「雲仙・虹」は社会福祉法人「南高愛隣会」(田島良昭理事長)が設立。法務省から主に高齢者や障害者を受け入れる施設の指定を受けている。



厚生労働省などによると、刑務所を出ても親族などの適当な受け入れ先がない人は、釈放者全体の4分の1に当たる約7500人(2009年)。このうち高齢だったり障害があったりして自立が困難な人は約1千人だ。65歳以上の満期釈放者のうち、約7割が5年以内に刑務所に再入所している実態もある。

施設長の前田康弘さん(54)は「出所してもお金がなく、行き先がない人が少なくなる。特に障害者や高齢者の場合、新生活の準備を整える場が不可欠だ」と強調する。

「南高愛隣会」の田島理事長が施設設立を思い立ったのは06~08年、厚生労働省の研究班代表として全国の更生保護施設の実態調査をしたことがきっかけだ。

調べた全国約100施設のうち、03~07年にかけて障害者や65歳以上の高齢者を受け入れたことがあるのは、わずか1、2施設だけだった。

経営する障害者自立訓練施設やグループホームなどが集中する雲仙市なら福祉の側面支援も可能だと、田島理事長は考えた。開所は09年4月。社会福祉法人による全国で初の更生保護施設だった。

#### 自立へ就労の道探る

雲仙市の高台には、社会福祉法人「南高愛隣会」の営むパン工場がある。すぐそばにある「雲仙・虹」や障害者福祉施設の利用者たちが、ともに働き自立をめざす場だ。

白いかっぱを着姿の男性(31)がオープンの前でパンの生地を並べていた。万引きを繰り返し、洗剤を盗んだ罪で懲役6カ月の実刑判決を受け、控訴した。発達障害の疑いがあり、再犯に手を染めないよう10月末、「雲仙・虹」に入ったばかりだ。

施設を利用できるのは、男性のように刑がまだ確定していない人や執行猶予中の人、刑務所を出ても行き先がない人たちだ。食事や生活の場を提供し、再犯に陥らないための「一時的なシェルター」としての役割を果たしている。

現在、窃盗や詐欺などの罪を犯した15~79歳までの男女13人が生活する。うち65歳以上の高齢者は4人。知的障害者や疑いのある人は8人にのぼる。日中は法人内の作業場に出て就労の習慣を身につけたり、障害者手帳を取得したりして、1年近くかけて就労先や自立訓練施設に移るための準備をする。

10月末に入所した男性(55)は車上荒らしを繰り返し、刑務所に8回入った。最初の受刑は27歳で、20年以上も刑務所で生活した。足に障害があり、うまく歩けない。「出所しても家族も仕事もないので窃盗をするしかなかった。ここで訓練を受けて仕事を見つきたい」と話す。

「雲仙・虹」を出て近くの自立訓練施設に移った人もいる。知的障害のある男性(32)は約20件の放火を繰り返し、現在執行猶予中の身で、ウシの世話やイチゴ農園の手伝いをしている。

#### ■取り組み先駆的

《「累犯障害者」などの著書のある元衆院議員の作家山本譲司さんの話》

社会的に排除された人たちを福祉につなげることが求められており、「雲仙・虹」の取り組みは先駆的と評価できる。知的障害者や高齢者は働く意欲があっても仕事を見つけるのが非常に難しい。社会復帰をめざす彼らのニーズに合わせ、住居や就労先の確保を支援することが緊急の課題だ。

名もなき受刑者たちへ 「黒羽刑務所 第16工場」体験記 [著]本間龍 [評者]温水ゆかり  
[掲載]週刊朝日 2010年12月3日

#### 刑務所の笑いは“オネ工達”が提供

以前ご紹介した『累犯障害者』(山本譲司著)。本書はその追隨書。著者(元大手広告代理店勤務)は山本氏の著作を読み、刑務所に行くなら同じような体験をしようと思い、認知症の高齢者、身体障害者、知的障害者などの世話をした。出所後、執筆&コメント活動を始めた著者の2作目、文庫書き下ろし作である。

本来、医療刑務所に入るべき人達が集められた黒羽・第16工場。刑務所では私語禁止だが、ここでは刑務官も見ても見ぬふり。お漏らししたり自分の名前が分からなかったり、周囲の声掛けがないと回っていかないからだ。が、それ以上にここを賑やかにしているのはオネエ達存在。恋愛沙汰を起こさないようにここに“隔離”されているのだが、叱り上手だったり、入浴時の高齢者の衣服の着脱を手伝ったり、天性の明るさと気配り上手で場に笑いを提供しているのだ。本書の大目的ではないこの「オカマの章」がめっぽう楽しい。ニセチチだから揉んでもいいと思う勘違い男や、思わず押し倒す不屈き者がいるのは娑婆の縮図か。

刑務所内高齢者人口が今よりもっと増えるのは目に見えている。国は一体どうする気なのだろう。ムショでオムツ。唱えてみると身が引き締まる。

『名もなき受刑者たちへ「黒羽刑務所 16 工場」体験記』（宝島 SUGOI 文庫）  
著者：本間 龍 出版社：宝島社 価格：¥ 480



### アサリとシジミを使った「羽田ケーキ」 貝を丸ごと、濃厚チーズで 福祉施設も協力へ

読売新聞 2010年11月30日



「羽田のアサリとシジミのチーズケーキ」を考案した谷口さん。アサリとシジミが丸ごと入っている。「羽田沖のものしか使いません」とPRする

羽田空港の国際化を記念し、空港に近い「萩中通り商店会」(東京都大田区)が羽田沖でとれたアサリとシジミを使ったチーズケーキを売り出したところ、「予想外のおいしさ」「ワインに合いそう」と注文が相次いでいる。

ケーキは地元の障害者福祉施設でも作ることが決まり、区も「地域の新たな名物になるのでは」と期待している。

商店会長で菓子店を営む谷口正樹さん(56)が9月、「シジミもアサリもみそ汁に入れればうまいが、ケーキにも活用できるのではないか」と思い立ち、商店街のイタリア料理シェフの協力も得て、試作に取りかかった。

一番悩んだのは、貝独特の味とにおい。貝を煮ることで和らげることも考えたが、「やはり貝の風味はそのまま残したい」と、加熱せずにオレンジキュールに漬けた。貝のクセに負けないよう濃厚なチーズケーキを選び、貝を丸ごと入れて焼き上げ、試作品を商店街や区の関係者に食べてもらったところ好評だった。「羽田のアサリとシジミのチーズケーキ」は直径6センチの丸形。先月末から商店街の喫茶店「ラマージュ」とステーキハウス「バッファロー」の2店で300円で売っている。両店で1日計20~30個ほど売れるといい、ラマージュ店長の宮崎利幸さん(52)は「絶賛する客も多い。ケーキでは一番売れている。秋田県からわざわざ食べに来た人もいた」と驚く。

谷口さんは地元の区立障害者福祉施設「はぎなか園」に声をかけ、日頃からパンを作っている知的障害者たちにもケーキ作りに加わってもらうことになった。谷口さんが同園に出向いて作り方を指導しており、施設長の井上一博さん(48)は「施設でも十分作れる。こういう形で仕事が増えるのはうれしい」と話している。

問い合わせは、ラマージュ(03・3745・4717)、バッファロー(03・3742・2622)へ。(土方慎二)



たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック

大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行